

八戸と未来へ

光星学院創立60周年

▶上◀

「全国から向上心あふれる仲間ばかりが集うなど、野球に集中できる環境があった。自分の最大限(の能力)を発揮できた」
プロ野球パリーグの今季の

首位打者で、シーズン歴代最多安打記録(216本)保持者でもある埼玉西武ライオンズの秋山翔吾選手(29)が、八戸大学(現・八戸学院大学)硬式野球部の日々を振り返

全国屈指のスポーツ強豪

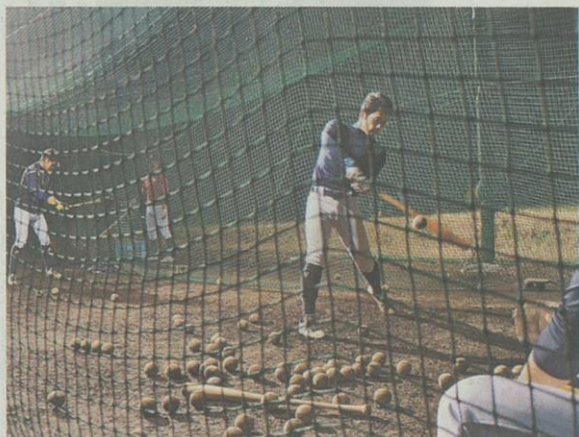
個性伸ばす自由な気風

る。神奈川県横浜須賀野市出身で、横浜市の高校を卒業後、野球に集中するため八戸大学に進学。霧田気があるというが、「う」といふことと自分との闘い

学。「仲間同士声を掛け合っ

はなかった」
同硬式野球部は1981年の開学と同時に創部。北東北大学野球リーグの強豪だ。今季は2位だったが、秋山選手と同様、野球をするために全国から集った70人の部員は、来季の優勝を目標に専用球場や室内練習場で汗を流している。

「全国大会を狙える大学として八戸大を選んだ」と言う現主将の中村晴樹選手(3年)は福岡県出身。野球に打ち込める環境の一つに部の寮生活を挙げ、「共に暮らす仲間の野球に対する意識を感じる。



日が落ちてからも黙々とバッティング練習に励む八戸大の硬式野球部員たち。強豪を支える意気込みが原動力だ

の敵さも口にする。
春、夏の甲子園で準優勝した光星学院高校(現・八戸学院光星高校)野球部をはじめ、レスリング、サッカー、スピードスケートなど数々のスポーツで強豪とされ、名選手を輩出している同学院の高校と大学。強い運動部で「光星学院のブランド力向上を図り、多くの才能ある入学希望者を集める」という側面はあるが、

「有望で多彩な人材の個性を伸ばす。併せて全人教育も志す。それが人間性の成長につながる教育となる」。法

「従来の総合学園構想を(法人としての)内向きのもとするなら、新構想は外向きといえる」法官理事長。鍵を握るのは柱の一つ、「国際教育の研究と実践」だ。

1956(昭和31)年の光星学院高校開校、59(同34)年の学校法人認可から、初代理事長の中村由太郎(1989年)は「光星学院にないからこそプロの自分はない」という。格闘家を目指し極真空道場に通いつつ、高校ではバレーボール部の主将を務めた。(若松清巳)